【意味・意義を考える】シリーズ⑫

平成３０年９月２５日
校　長　多々納　雄二

《以下は前年度の発信分です。今一度「規則を守る」意義について考えてもらいたいため、再度発信します。》

【意味・意義を考える】シリーズ⑪

平成２９年９月２０日
校　長　多々納　雄二

規則の中の自由　～　成長と安全のために　～

「規則（ルール）が厳しい」とか「もっと自由を」といった声を聞くことがあります。また逆に、「規則を厳しくしてはどうか」、「大人（教員）がもっと生徒に関わって、社会のルールやマナーを教えてほしい」といった意見も同じくらい寄せられます。前者は生徒、後者は保護者や地域の方々からが多いのは、いつの時代もどこでも同様でしょう。世の常として、生徒はより自由を欲し、大人はより秩序を欲するものです。学校にあっては、時代や社会の変化を見定め、生徒の現状を把握しながら、うまく調整していくべきだろうと思います。規則は人が編み出した「恣意的な発明」なのですから、状況に応じて「カイゼン」すればいいとも思っています。ただし、その規則が発明（制定）された原点に思いを馳せて、制定当時の背景や意義・目的を、慎重に考える必要はあるでしょう。おそらくその発明があったからこそ、歴史や伝統がうまく紡がれてきたはずですからね。だから、たとえどんな声や意見があったとしても、そう簡単に「学校の規則を改めます」というつもりはありません。その点は理解してもらいたいと思います。

さて、しばらく前に印象的な話がありました。なるほどそのとおりだと感心したので紹介します。

数名の寮生が、ある時ほんの軽い気持ちで寮内規則の違反をしました。ちょうどハウスマスター不在の時であり、寮務を主管する立場の先生から関係寮生に指導が行われました。その時の先生の言葉です。

「規則はたしかに守るべきものだが、強いるものではない。君たちの安全と安心を守るためにあるのだ。」

もちろん前後のやりとりがありますが、言葉を聞いて、寮生の納得感は高まったように見受けられました。規則違反は当然いけないことですが、こうした機会を通じて、寮生たちの規則の意義理解や規範意識が深まり、「規則を守りたい」意識が高まるのなら、「失敗」も次の成長につながる意味で許容できると思います。

同じような話は、学園祭の準備期間中の全校終礼でもありました。

「（学園祭準備中の物品貸出等について）**規則は君たちを守るためのものだから、みんなで守ってほしい。**」

これは生徒部の先生から全校生へ発せられた言葉です。生徒たちが静かに聞き入れてくれて感心しました。学園祭があれほど思い出深いものとなったのも、こうした準備期間からの言葉やメッセージがしっかりと伝わり、準備や当日において、**規則の中で許される最大限の自由を満喫してくれた**からではないでしょうか。

規則は自由を奪うと思われがちですが、実は違うと思います。とりわけ集団生活や社会の模擬体験をする学校などでは、児童・生徒の権利や生活上の安全・安心の保障に欠かせないのが規則であり、いわゆる自由を保障するのも規則ではないかと思います。「なんでもあり」の自由は、「なんでも危険あり」状態を生み、公共心や人権意識がおろそかにされ、義務遂行により保障される権利の有名無実化につながりかねません。

たとえば、制服について。制服のない国や学校は数多くあります。が、日本の中学校や高校では制服のあるのが大半です。多くの学校が自由度の高い私服に移行しないのはなぜでしょうか。その要因の一つには、過剰な「ファッション合戦」に陥らないようにすることで、保護者に経済的負担をかけない、学ぶことへの集中度を高めるといった意味があるでしょうが、それにもまして、**帰属意識やその学校で学ぶ誇りを大切にする**意味があると思います。制服さえ着ていれば、地域や学校といった、ある一定の範囲内では、名札などをつけなくてもその学校の生徒だとわかります。余計な気を遣うこともなく、生徒同士でも安心した交流ができます。そうした安心の前提で、学びを中心とした内なる成長に期待できると思うのです。もし、制服のたがが外れて自由度が高まれば（教室で体操服を無許可で羽織る、登下校時に制服を着ないｻﾄﾞ）、当然私服化に近づき、外見に気が散りやすくなり、制服の持つ安全機能が失われてしまうでしょう。同じ学校で学ぶ仲間や同志たちと、個々の思いは多様ではあっても「共通」の目標に向かって学び（行事を含む）に集中することで、「この学校の一員として誇りを持った生活ができた」と胸を張って翔び立てる時が来る、それを保障したいと強く思います。帰属意識や誇りは、今と未来の人生の礎となる重要なものであり、その意味や意義を理解して、生徒の皆さんには守ってほしいのです。生徒会の自発的な呼びかけにも期待しています。

「規則は、自由を守り、安全・安心を保障するもの。そして、成長を促すもの。」出自や習慣が異なり、多様な価値観が混在する本校では規則の理解困難がつきものですが、機に応じて伝え続け理解を促すことで、みんなでよりよい学校にしていきたいと思っています。理解と協力をよろしくお願いします。